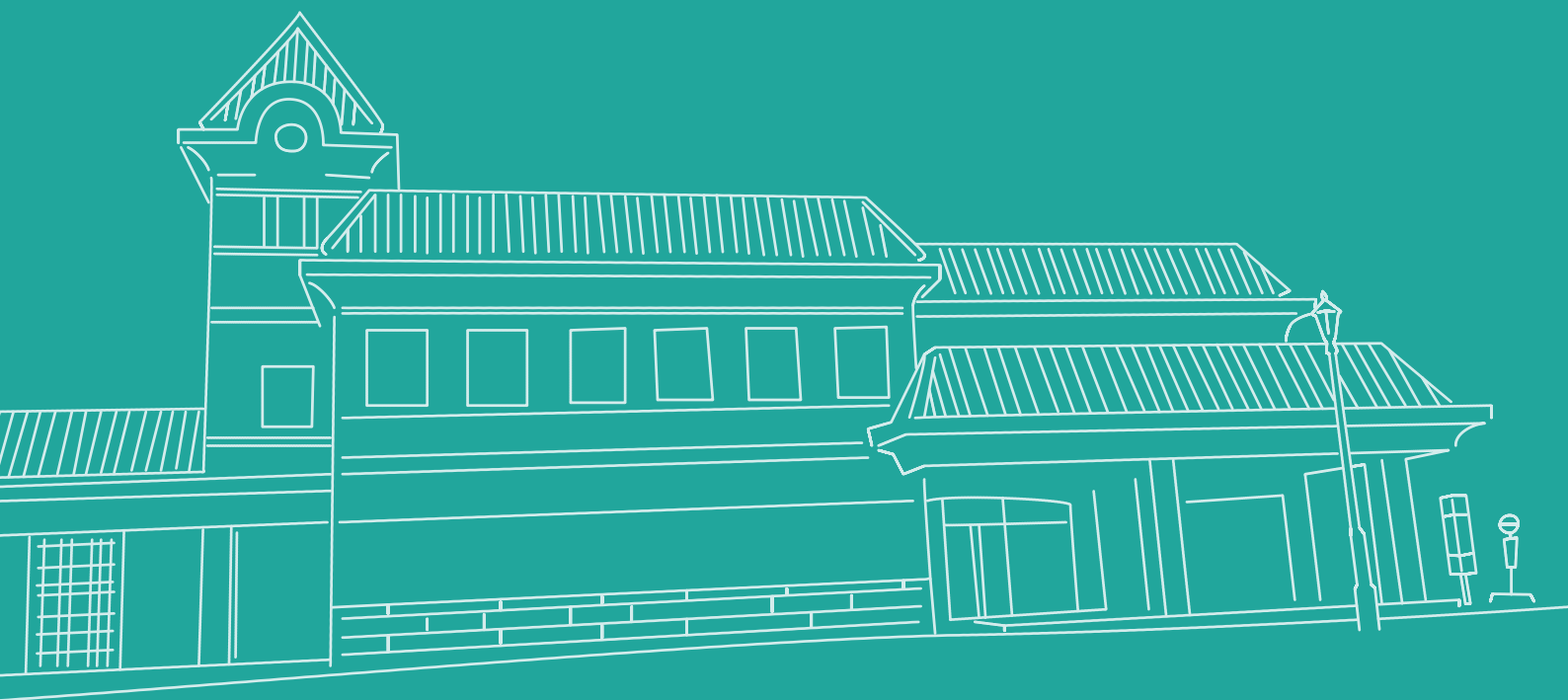


さつま町 観光未来計画



はじめに

さつま町では、第2次さつま町総合振興計画において、
「ひと・まち・自然 みんなで紡ぐさつま町」という将来像を描き、
「価値ある資源が活かされるまち」というゴールを設定して
様々な施策を描いています。

そのなかでは、施策として
「人と人がふれあう観光のまちづくり」を標榜し、
「地域資源を生かした観光のデザイン」
「つながり、おもてなしのまちづくり」
を行うこととしています。

この計画は、
町民有志と役場職員が月に1回の会合を重ねる中で、理想の未来を描き、
そのための最初の一步を踏みだした協働と実践の記録として、
そのプロセスと議論の成果を取りまとめたものです。

多くの皆様の目に触れ、これからの観光を考える道しるべとして、
手に取っていただけますと幸いです。

もくじ

はじめに	02
さつま町の観光を取り巻く状況	04
さつま町観光未来研究室に関して	06
・ワークショップの基礎設計	06
・さつま町のプレイヤー紹介	08
・さつま町の課題と資源	10
・さつま町の理想の未来	13
・テストマーケティング	14
・県内講師の事例紹介	16
アクションプラン	18
おわりに	20

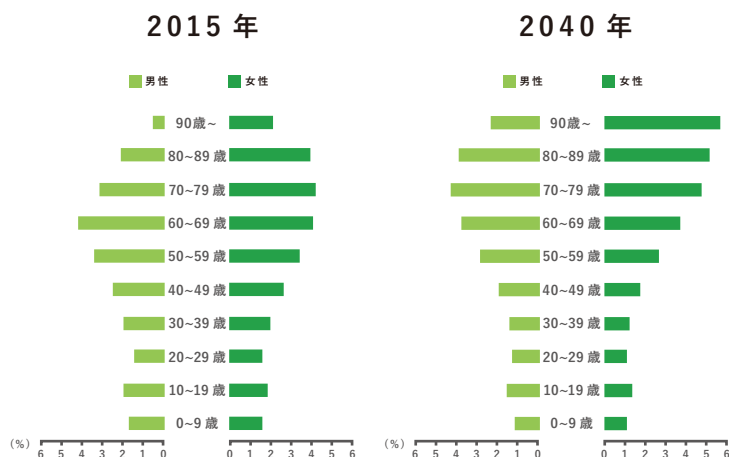
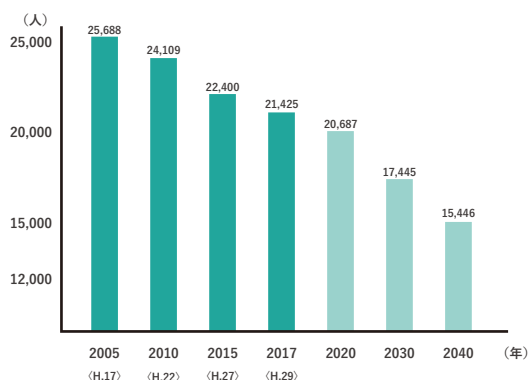
さつま町の観光を 取り巻く状況



さつま町は、紫尾山や中岳に囲まれ、町の真ん中を川内川が流れ、3つの国道が交差するなど、自然に恵まれた交通の要所となっています。

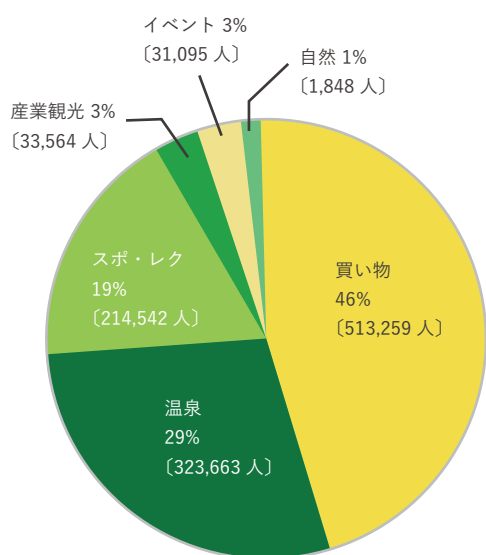
川内川で獲れる鮎やたけのこ、お米に焼酎に黒牛など、食の資源がとても豊かです。また、食だけに止まらず、温泉や薩摩切子、さらには歴史を物語る史跡など、多岐にわたる文化がさつま町には残っています。

人口は昭和25年の5万人をピークに、減少が続く、直近の調査(平成29年)によると2万1000人と、半分以下の人口になっています。将来的にも人口は減り続けると予測され、2040年には、1万5000人ほどとなる可能性があります。



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値



目的別入込客数

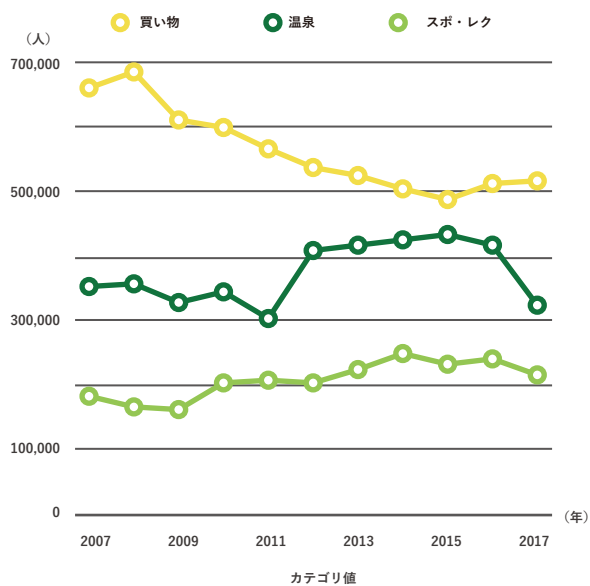
【出典】さつま町役場商工観光 PR 課「さつま町観光地点種類別入込客延人数」

全体として見ると、入込客数も減少傾向にはありますが、項目別に見ると、スポーツ・レクリエーション目的の客数は、近年増加傾向にあります。その他の項目も、平成 20 年（2008 年）前半に比べると、客数が回復傾向にあります。

目的別入込客数を見ると、一番さつま町外から人が訪れる目的は「買い物」となっています。

二番目に多い目的は「温泉」です。紫尾温泉や宮之城温泉など、歴史のある旅館もあり、宿泊でも日帰りでも、温泉を利用する客数は多くなっています。

三番目に多い目的が「スポーツ・レクリエーション」であり、スポーツ施設が整っているさつま町では、合宿なども多く行われています。



観光未来研究室 ワークショップ

さつま町観光未来研究室とは？

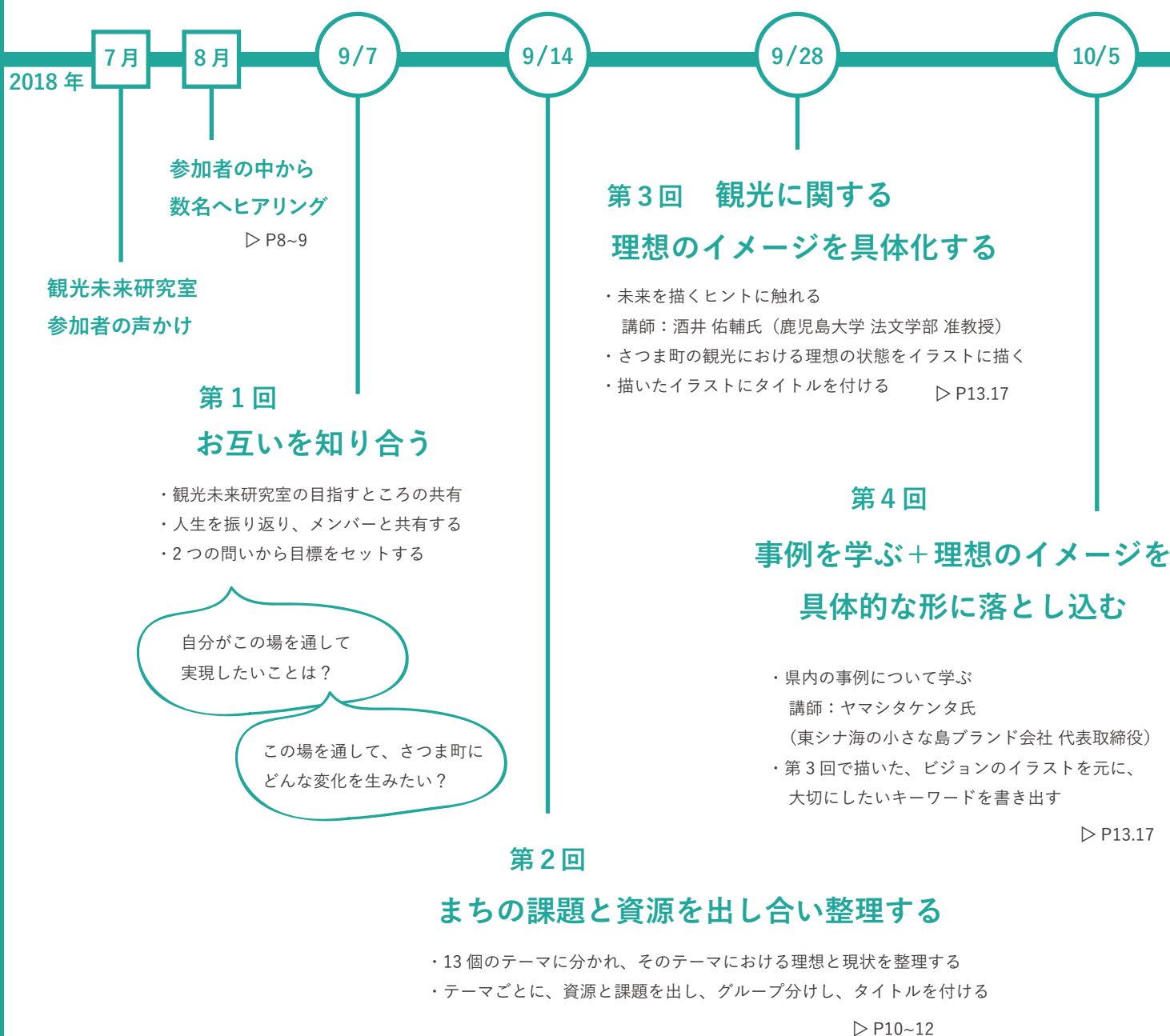
「観光未来計画」をさつま町内の行政職員や会社員、観光に携わっている人全員でつくり、「オールさつま」でさつま町をPRしていく官民連携の推進体制を築いていく場です。

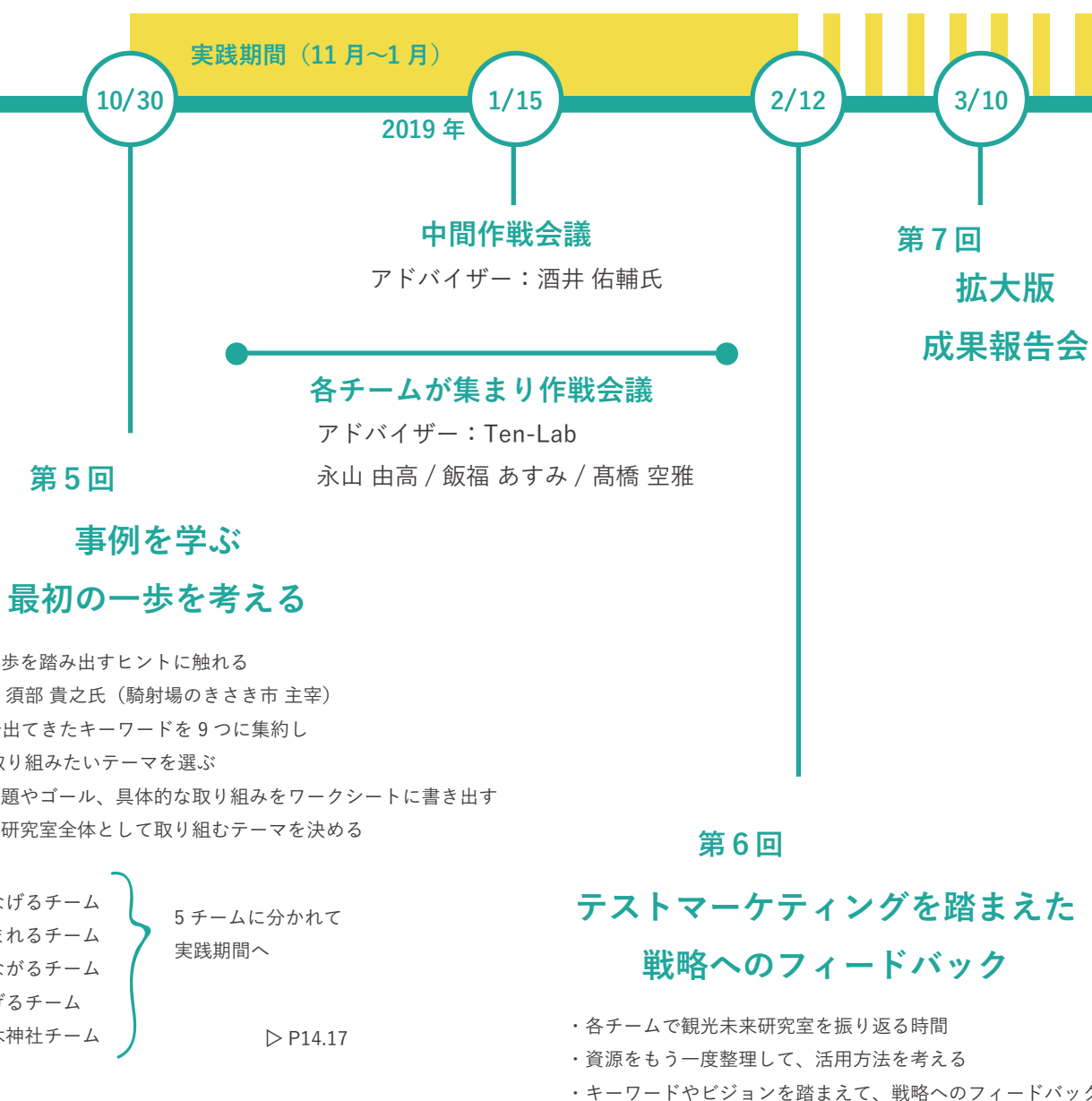
目的

- ①観光および物産に関する戦略が共有されていること
- ②連携促進・受け入れ体制の整備・組織をつくること

大事にしたいこと

まちの未来は「いつか誰かに変えてもらう」のではなく、「自分自身が最初の一步を踏み出す」こと





さつま町の プレイヤー紹介

今回のさつま町観光未来研究室には、さつま町で観光に携わっている多くの方にご参加頂いています。その中でも旅館経営者や報道関係者、観光特産品協会の方など、7名の方に、さつま町の魅力や観光を考える上での課題、感じていることなどをお聞きました。関わり方は人それぞれですが、さつま町のことが大好きで、もっと良くしたいと思っている7名の声をぜひご覧ください。

職種を超えて連携して、 物事が前に進む町に

私はさつま町に住んで2年ほどです。それまでは年に1回ほどしか足を運ぶ機会はありませんでした。町外にはあまり知られていませんが、農産物がとても美味しいです。温泉もたくさんあるし、夏でも朝晩過ごしやすい気候の地域は県内でもなかなかないでしょう。鹿児島市内から友人が遊びに来る時に感じるのが、遠いイメージを持たれやすいこと。私も来る前はそうでしたが、さつま町の場所を正確に把握されていないことが多いです。役場との繋がりを薄く感じることもあるので、職種を越えて連携して、前に向かって物事が進む町になって欲しいですね。

新聞社 本坊 弓子さん



町中でお金が循環する 仕組みづくりを

私は商工会青年部に7年ほど前から所属していますが、良い意味でアツい人がたくさんいます。街中でお金を循環させる仕組みを作りたいです。そのために魅力あるもの作りやお店づくりを考えています。若者流出は大きな課題ですが、若者が居たいと思える努力を僕たち大人ができていないのではないのでしょうか。今、子育て中ですが、大変なことも、不便だと感じることもないです。ただ、公園が少ないので小さい子どもが遊べる場所が少ないです。また、さつま町には元氣な人が多く、いろんな世代が集まった時に、誰が旗を振るのか、行政だけでなくみんなで話していきたいです。



洋菓子店
此元 一晶さん

単体ではなく、全体で 動くことが大事

旅館業の傍ら、宮之城温泉竹ホテルや枕投げ大会など、地域のイベントに関わっています。商工会や青年団など、単体で動いていますが、人口が減ってきているのだから、まとまらないといけない。町外の人には知らないという現状を認識しないといけません。今やっているPRが届いていないということだから、もっとの別のやり方が大事ですね。いま、奥薩摩温泉郷という、他の地域も巻き込んだ動きをしています。単体じゃ効果が弱いものを複合させて、全体として大きく見せていくことで、PRにもなるとなっています。上手に全体をつないで、10年後に作ってよかったと思われる奥薩摩温泉郷にしていきたいです。



旅館業 片山 普介さん

ゆっくりできる こともさつま町の 魅力のひとつ

旅館業 手塚 良平さん



旅館業の傍ら、観光特産品協会の副会長や、県の旅館組合の副理事なども務めています。全国の旅館経営者と会うこともありますが、鹿児島県の認知度はまだまだだと痛感しています。宿泊客は7割の方はチェックアウトギリギリに帰ります。ゆっくりする人が多いのですが、それもまた体験の一つで、さつま町の魅力とも言えるのではないのでしょうか。仕事をする中で、働く人は少なくなっていると感じます。旅館業でも人手不足は深刻で、外国人雇用も視野に入れています。

リピーターになってもらう 仕掛け作りが必要

さつま町に来て7年が経ちますが、第一印象は温泉の町でした。観光で来る人はいますが、リピーターになってもらう仕掛け作りが必要だと思います。観光特産品協会としては、現在温泉を支援していく仕組みがないから作りたいですね。10年後のさつま町のあるべき姿とは何か？どうなっていたいのか？を意識しながら、観光を考えていきたい。紫尾温泉や宮之城温泉などのすでにある資源を魅力的にしていって、そこに他の資源がくっくとさつま町の観光がもっと魅力的になるのではないのでしょうか。

さつま町観光特産品協会
犬石 祐次さん



いろんな生産者とオール さつまで取り組んでいきたい

紫尾温泉組合とは別で、6年ほど前に飲食業組合支部を23店舗ほどで立ち上げました。情報交換が活発になり、紫尾全体で取り組みたいことに着手できるようになりました。紫尾を含め、温泉はさつま町の大きな資源だと思います。畜産や農産など、食も素材がいろいろたくさんある中で横のつながりが薄く、情報共有ができていないのが現状です。さつま町には、いろいろな生産者がいるので、オールさつま町での取り組みを進めてきたいです。

旅館業 山之内 愛章さん



地域間連携のための プロデューサーが必要

さつま町商工会

有馬 隆志さん



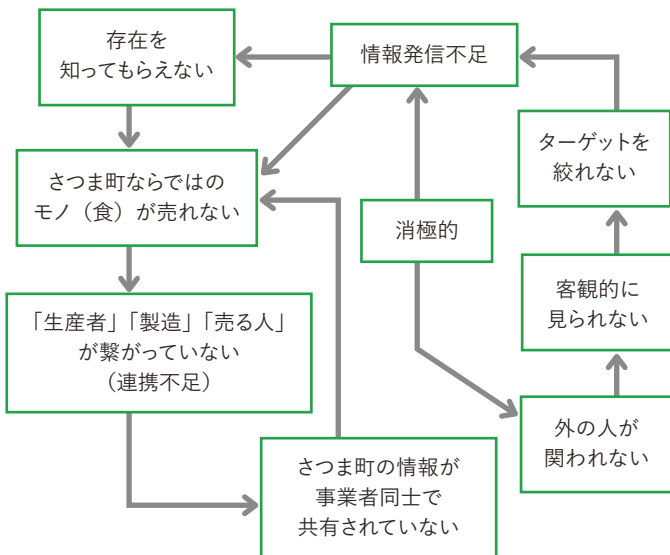
普段は通りに会に所属していて、宮之城軽トラ市などを毎月開催して今年2年目です。さつま町の資源は過ごしやすい気候とアクセスの良さ、長い歴史と文化です。合併してできた町なので、元々の地域同士の競争意識は高いですが、良い面で作用しているのではないのでしょうか。さつま町には、みんなをまとめられるプロデューサーがいません。この町の未来を考える上で、「観光」が目玉になるが、連携や一体感がないと感じています。役場や民間など様々な垣根を超えた地域連携が生まれるためにも、プロデューサーの存在が必要だと感じています。

さつま町の 観光に関する 7つの課題

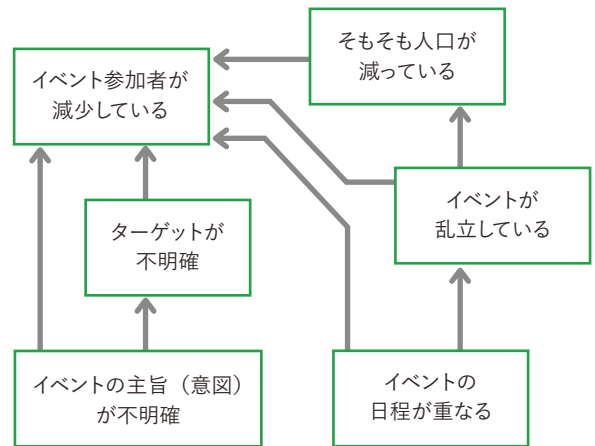
さつま町の観光を考えるにあたって、

課題・その背景（＝原因）・課題が起こることによって生じる困りごと（＝結果）を考え、課題を取り巻く全体像を把握するところから始めました。

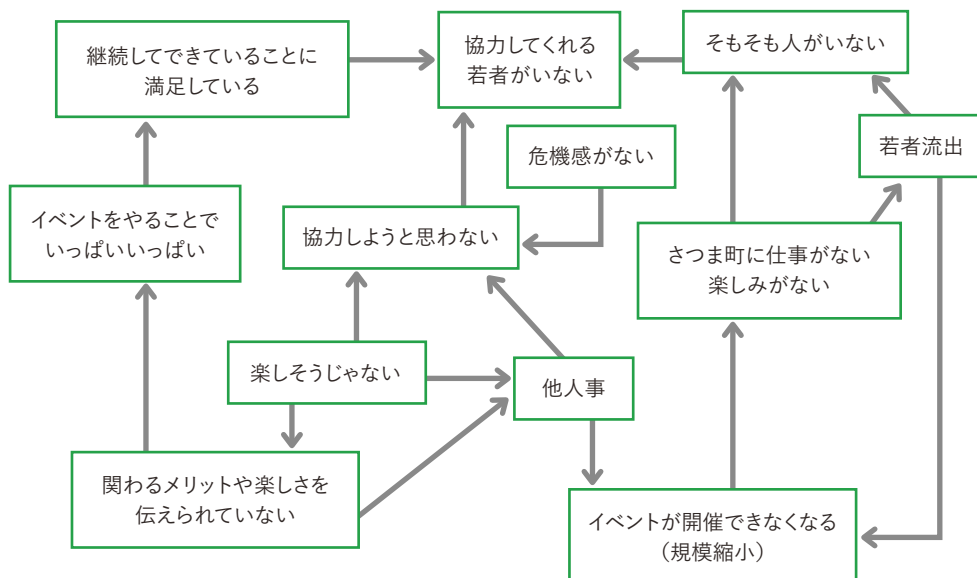
観光に関わる事業者の連携不足問題

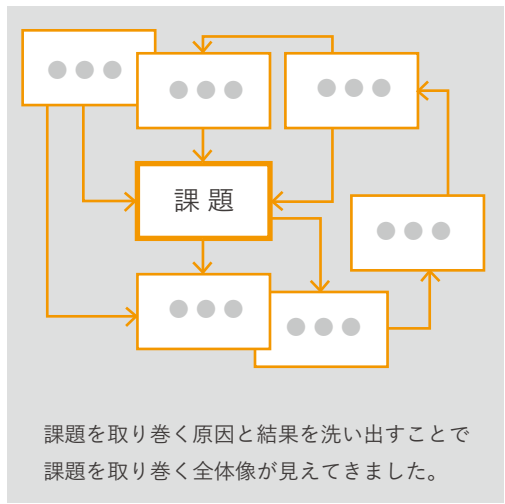
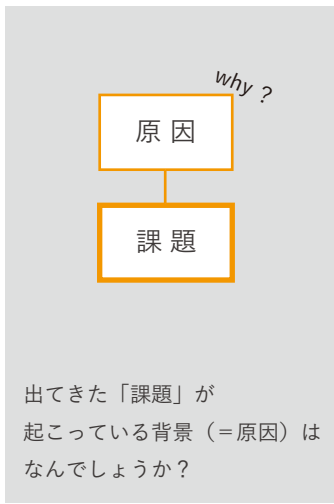
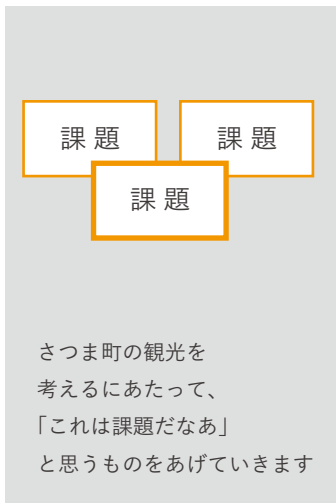


イベント開催の意図不在問題

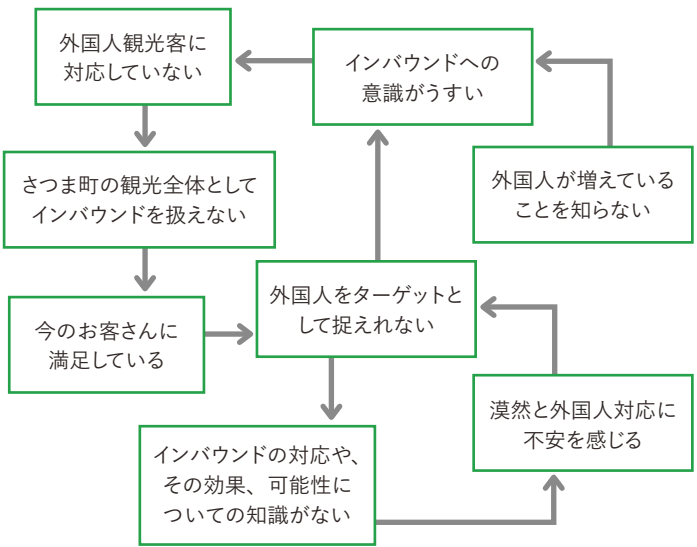


若者も関われるイベントづくりができていない問題

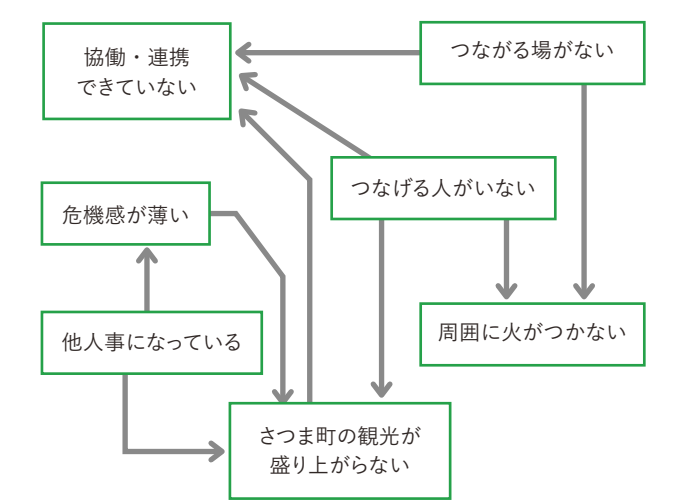




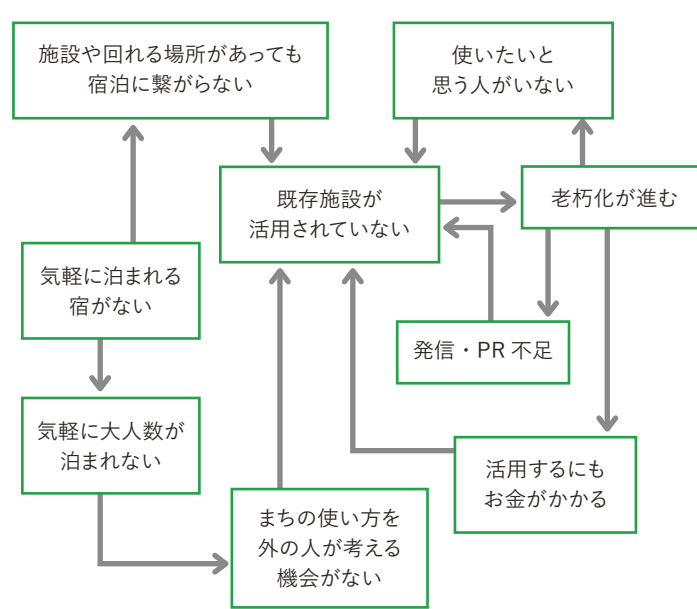
外国人をターゲットとして受け入れられない問題



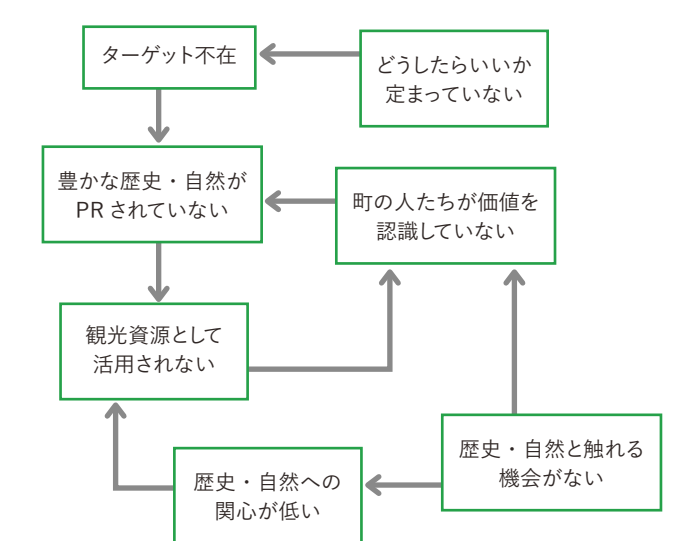
さつま町の危機意識が低い問題



既存施設の老朽化問題



地元の歴史・自然離れ問題



さつま町の 観光に関する 資源一覧

さつま町の中にはたくさんの魅力や資源があります。みんなで洗い出すことで、知ってはいけれども"活用できる資源"としては認識できていなかったというものもたくさんあると思います。

さて、可視化された資源を使ってどのような一歩が踏み出せるでしょうか？洗い出された資源をテーマごとに整理していきましょう。

食

白ナス	山太郎 カニ	竹の子	柿	地鶏	黒毛和牛
鮎	イノシシ	鳥刺し	パッション フルーツ	新酒祭り	米
ごぼう	梨	芋	焼酎	茶	ぶどう
サツマイモ	マンゴー	金柑	ハチミツ	いちご 饅頭	温泉水
味噌	黒毛和牛 たけのこ丼	ちまき	ねぎ	トマト	みかん類
生茶 だいふく	がね揚げ	100% そば	早掘り 竹の子	ドラゴン フルーツ	いちご

自然・景観

紫尾山	蜚	寒蘭
竹	川内川	もみじ
茶畑	田んぼ	カジの木
霧	うなぎ	滝めぐり
永野金山	ホタル舟	川魚
野鳥		

温泉

あおし柿
泉質
温泉 ジェル
紫尾温泉
宮之城 温泉

人

世に出て ない人	旅館組合	移住 ドラフト 会
地域おこ し協力隊	埋もれて いる若手	マスコミ
青年団 青年部	口コミ	約300人 の外国人

施設・商店

北薩広域 公園	カフェ
歴史資料 センター	川魚 料理店
盈進 小学校	宗功寺 公園
観音滝 公園	かぐや姫 グラウンド
文化 センター	I G R 京セラ
鶴田ダム	楠木神社
宮之城鉄道 記念館	焼酎3蔵
酒屋	

イベント

落語	初市
どろんこ バレエ	Jリー グ合宿
子牛 せり市	ゴルフ
金吾様踊り	ピクニック マーケット
まちゼミ	百縁祭
夏まつり	ひがな花祭
暮れ市	軽トラ市

伝統工芸 文化

薩摩切子	神社巡り
郷土芸能	竹細工
工芸 センター	竹灯籠
鶴田和紙	

キャラクター

かぐや姫	さつま ちゃん
------	------------

情報媒体

ス マ ホ		S N S	
防 災 無 線	タ ウ ン 情 報 誌	折 込 チ ラ シ	
掲 示 板	新 聞 テ レ ビ ラ ジ オ	口 コ ミ	

交通

空港から 近い	交通 アクセス
------------	------------

※ワークショップ内で出された意見を整理したものです。今後の活動を通じてこれら資源の見直しや追加を随時行っていきます。

さつま町の理想の未来 - 観光について -

さつま町の観光について、目指したい理想の未来を考える中で、大きく5つの方向性やキーワードが見えてきました。

埋もれている
地域の光（資源）
を磨く



癒しだけじゃない
さつま町の魅力を
引き出す



贅沢な光と
癒しを体験
できるものへ



人がつながり
まち全体が
つながる町へ

さつま町を
中心として
北薩地域が
つながる町へ



さつま町観光未来研究室として 大切にしたい価値観、キーワード

理想の未来像から、さつま町観光未来研究室全体として目指す北極星となるようなキーワードを言語化していきました。

理想の未来

ホテルが移住 したくなるまち

美しい自然を守り続けるまち

理想の未来に向かって
私たちができること

さつま町の観光に関わることが
「じょじょん楽しい！」そんな雰
囲気・文化を醸成していくこと。

※じょじょん=とても

すでにあるたくさんの人・資源、それら
はどのタイミングでどこでどうつながる
かはわからない。しかし、走り続ける人
たちがいれば「何かがつながり、何かが
生まれる」そんな連鎖が起こること。

私たちが担う役割は
「癒やしの光を紡いでいく」こと

理想の未来を考えるにあたって「観光とは、
光を観ると書きますよね」という話が何度か
出てきました。さつま町の観光を考えるにあ
たって「光」はキーワード。そしていま在る
ものを観るとのこと。さつま町で得られる
癒しは、温泉、食、人、サービスなどあらゆる
ものがあるが、それらがさつま町のなかで
ちゃんとつながっていくこと。それらを「つ
むいでいく」役割が「さつま町観光未来研究
室」なのではないかと考えています。

現在

ビジョンを実現するための最初の一步 テストマーケティング

ビジョン実現のために、いまできることは何か。

全5チームが作戦会議を通して、最初の一步を踏み出しました。

01 つながる チーム

具体的な困りごと

場づくり、連携・協働ができていない、つなげる人がいない、みな他人事になっているという問題

取り組みの内容

そもそも集まる「場」がないということで、十分に活用できていない宮之城鉄道記念館の2階にある会議スペースの清掃から始めました。

綺麗になった会議室と Wi-Fi も通り、会議や活動がしやすい環境となっています。次のステップとしてはこの場所がちゃんと認知され、つなげる場所として機能していくよう具体的な運用に向けて試行錯誤を続けています。



02 生まれる チーム

具体的な困りごと

さつま町としての資源や日本一がたくさんありすぎて選びきれない・絞り切れない問題

取り組みの内容

米やタケノコなど、さつま町の「日本一」食材を集めた朝食会を、テスト的にきららの里公園で実施しました。

"無駄に贅沢な朝ごはん"をテーマにさつま町の資源である紫尾山や温泉、自然とともに星空、日の出を楽しむようなコンテンツの観光企画の一つとして提案。実際に体験してみることで課題や活かせる点、継続的な実施のための方法を考える機会となりました。



03 広げるチーム

具体的な困りごと

さつま町に関するまとまった情報を見つけづらい、検索してもなかなか出てこないなど、情報発信の方法ややり方に関する問題

取り組みの内容

はじめに、いまある情報発信媒体（さつま町に関する情報を発信している個人、団体等）を洗い出し、それぞれがこういった内容を発信しているのかを調査しました。



実際に SNS 等を活用した情報発信を行う方々向けのアンケート（発信にあたっての悩みや気をつけていること等）を実施することで課題が見えてきました。次は実際にさつま町で開催予定のイベントにて、参加者向けのアンケートを実施予定で動いています。



04 つなげるチーム

具体的な困りごと

さつま町として海外からの観光を考える意識が低く、そもそもターゲットとして受け入れられていない問題

取り組みの内容

「さつま町在住外国籍の方」向けのアンケートを作成。さつま町の住みやすさ（買い物、交通等）／観光／魅力等について伺いました。

役場に協力をもらうことで、さつま町内の外国人労働者を雇用する事業所に対してのアンケート配付の協力をいただき、集計まで行いました。そこから要望や英語に限らず多言語対応の必要性等が見えてきました。

05 楠木神社チーム

具体的な困りごと

観光の目玉となるものが地域のなかにちゃんとあることが大切。楠木神社の価値を多くの人がわかっていない問題

取り組みの内容

宮之城屋地にあり、由緒ある楠木神社。実はその御神体、ものすごい価値があると言われています。御神体の保全のため、まずは清掃活動からスタートしました。

ご神体が祀られている戸の状態を確認したところ、シロアリ被害を発見…！そこからは一気に整備が進むことになりました。



自分たちで まちの未来を考える

今回のさつま町観光未来研究室をコーディネートしている一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab が大事にしている考え方と、県内講師による事例紹介・まちづくりのポイントについて整理しました。

「消費者＝地域の人口」が大幅に減る中で、当然ながら税収は減り、地域経済の基盤強化を行政に任せることの限界がきています。

ここで大切なことは、地域の暮らしを自分たちで守り、育てるために、行政と民間の役割分担を考えることが必要になります。

さつま町観光未来研究室
コーディネーター

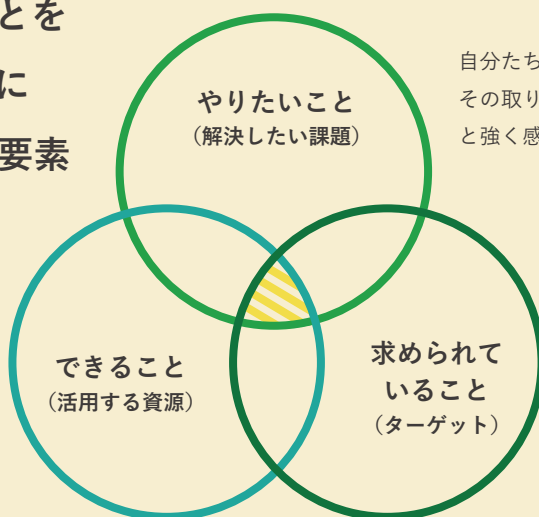
一般社団法人
鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab
理事長 永山 由高



Ten-Lab とは、鹿児島に「対話と挑戦の協働文化をつくる」をミッションに、鹿児島県内各地の地域づくりのサポートや、県内最大の対話と挑戦の場「鹿児島未来 170 人会議」のコーディネート等も行っています。

自分たちで出来ることを 自分たちでするために 大切にしたい3つの要素

本業につながること。
自分の強みを発揮できること。
そのテーマに強みを発揮する仲間がいること。



自分たちが「やってみたい」と強く思えること。
その取り組みが自分たちの地域を豊かにすると強く感じられること。

その取り組みを求める人が具体的にわかっていること。
その取り組みがないときに困っている人がいること。

地域で何かを始めるときの 困りごとと解決策！

参加者が集まらない
活動経費が確保できない
「あいつがやるならやらない」という人
足をひっぱりあう
イベントを初めても一回限りで終わる
言い出しっぺが責任を取るという発想
など

「やりたい」のエネルギーを最大に使う

心からわくわくできる、やりたいと情熱を注げることのエネルギーがあればできることは広がっていきます。また地域の皆さんが“やりたいこと”を語りあえる場をつくることも大切。まだやりたいことがない人は、やりたいことがある人の応援に回ることから始めましょう！

「やわらか発言」を意識する

誰かのアイデアに対して「そんなことでできるわけないだろ、馬鹿野郎！」なんて言われたら相手はきっと萎縮してしまいます。「ちょっと難しいと思うけどどうかな？」とやわらかく言葉を返してあげるだけで安心して話せる対話の場が守られます。

小さく始めて大きく育てる

テンラボでは「やりたいこと・できること・求められていること」その3つが重なることにより良いプロジェクトづくりにつながることをお伝えしています。とはいえ、最初から3拍子そろえることはなかなか難しいと思います。まずは自分でできることから小さく始め、時間をかけて大きく育てていきましょう。

これまで誰もが想像・創造してこなかった未来を みんなとともに描いていく必要がある



鹿児島大学 法文学部
法経社会学科 地域社会コース
准教授 酒井 佑輔氏

多文化共生、社会教育、地域づくりに関する研究をテーマとしている酒井先生が担当する授業「アクティブ・ゼミ」では、日本人学生+留学生が、「インバウンド」というテーマのもと、実際のフィールドワークを通して、出水市の観光の未来を考え提案する取り組みを実施しています。災害が起こったときに鹿児島に暮らす外国人と地域住民が相互に助けあえる関係性づくりを目指して「多文化共生防災まちづくりプロジェクト」にも取り組んでいます。



Point

- 国籍・年齢関係なく、誰もが支え合える関係性を普段からつくっておくことが大切
- 多様な主体と未来を描く3つのポイント
 - ①話を聞く（相手の話を理解する、信頼関係を築く）
 - ②共通の拠り所を探す（互いの共通点を見つける）
 - ③自分の思い・気持ちに素直になる
（自分が考え抜きたい・解決したい問いに向き合う）

子どもたちに地域の思い出を残す場をつくること



有) すべ産業 リノベーション部長
騎射場のきさき市 代表
須部 貴之氏

2015年11月より、鹿児島市内の騎射場エリアにて、1万人規模のイベント『騎射場のきさき市』を開催。まちの隙間（軒先など）を活用して、100店舗以上が出店する大規模なマーケット。イベントを通して、様々な地域課題を解決するために、地域の中にある大学と連携を取り、地域住民を巻き込みながら、コミュニティづくりを行っています。



Point

- 「まちを動かす一歩」とは、
 - ①まずはまちを思うこと
 - ②まちを調べる / 何がしたいのかを考える
 - ③周りの人に話してみる（共感）
 - ④とりあえずできる範囲でやってみる
- まちの中で役割分担をして、自分たちがどの位置付けなのかを知ること
- 目標を短期・中期・長期で設定して、積み重ねていくこと
- 集客や発信だけではなく「地域の人に知ってもらうため」のメディア活用

やらなければ絶対に変わらない



東シナ海の
小さな島ブランド株式会社
代表取締役
ヤマシタ ケンタ氏

日本の高齢化率は約26.7%（平成27年10月現在）。ケンタさんがフィールドとしている上甕島里町は、人口1,206名。高校はなく、高齢化率は52%の超最先端の過疎地。「日本のおいしい風景をつくる」をミッションに、「朝からお豆腐を買いに行く風景」を残すためのお豆腐づくり、「米づくりの風景」を残すための米づくりから始めました。テラスや宿運営、漁師さんと消費者が直接つながるイベントなど様々な仕掛けを行っていますが、そこに一貫していることはいつもと変わらない「今ここにあるものが僕らの日常である」というメッセージ。



Point

- 手段と目的を間違えないこと
- 地域の活性化は「いくら稼いだか」よりも「いかにして稼いだか」が大切。
小さいコミュニティのなかで自分だけ幸せになるのは幸せではない。

さつま町 観光戦略

具体的アクションプラン

さつま町観光未来研究室での議論を踏まえ、今後理想の未来を実現していくための方向性を整理しました。
2019年4月からの約1年間と、さらにその先のアクションプランについての素案をご紹介します。

2019年4月～2020年3月

1 基盤整備事業

① 拠点整備・運用

- …宮之城鉄道記念館2Fを様々な活動の拠点として整備・運用する
 - ⇒ コワーキング機能
 - ⇒ パーティ／コミュニティ機能
 - ⇒ スタジオ機能 ほか

② 運営チームの組織化

- …観光未来研究室の運営メンバーの選定と、運営手法の検討
 - ⇒ 観光特産品協会との連携の在り方検討
 - ⇒ 収益事業のテストマーケティングによる「稼ぎ方」検討

③ 情報発信インフラの整備

- …観光未来研究室に関することを中心に、さつま町の観光関連情報を発信するプラットフォームメディアの整備
 - ⇒ Blogメディアの設計
 - ⇒ ライターの養成
 - ⇒ SNSでの情報発信
 - ⇒ まちづくり企画合同記者発表

2 戦略的プロジェクトの実行支援

① ひかり感じる体験プロジェクト

- …最高の朝体験を生むイベントの企画と運用
 - ⇒ 朝ごはんプロジェクト
 - ⇒ 朝マルシェプロジェクト
 - ⇒ 楠木神社プロジェクト

② 世界の癒しプロジェクト

- …海外からの観光客や移住者がさつま町を満喫できるような環境づくり
 - ⇒ 在留外国人へのフォロー
 - ⇒ インバウンド観光客へのサポート

2020 年 4 月～

町民

役場

観光特産品協会

商工団体等

連携

(仮称) さつま町観光未来研究所

- 一般社団法人、NPO法人、合同会社、株式会社等何らかの法人格を有する
- 主要業務は、下記を想定
 1. 観光関連のプロジェクトをすすめる拠点の運用
 2. 観光関連の各団体（役場、協会、商工会など）との連携
 3. 観光関連業務の情報発信
 4. さつま町の多様な主体によるコミュニケーションの機会づくり
 5. さつま町観光戦略ビジョンにおける戦略的プロジェクトの実施主体化

収益モデル

① イベント運営

朝ごはんイベント、朝マルシェなどの運用に関する収入

② 広報媒体運用

Web媒体を中心としたSNS連携広報による広告費収入

③ 拠点運用

会費や利用料収入

④ 会費収入

加盟企業や個人からの負担金収入

協会法人化

正式
メニュー化

おわりに

1年間さつま町の皆さんに伴走させていただく中でたくさんの気づきがありました。

この町には多くの観光資源があること、町の皆さんがそれらを大切に思っていること、そして一歩踏み出す熱意を持った方がたくさんいらっしゃるということ。

観光を取り巻く状況はどんどん変化し、これまでのような「観光地をめぐる」旅から、「暮らしの光を見る」旅へと変わってきています。

「ここでなければ」「今でなければ」「この人でなければ」という、さつま町ならではの観光体験を町として提供するために、まずは町の皆さんが同じ目標に向かって走り続けることが必要です。

今回確認した理想の未来をより多くの人と共有するとともに、自分たちが当事者であるという気持ちを常に持ち続けること。

この町に住む人と、この町を訪れる人がともに幸せを感じられる街を目指して。
皆さんのこれからの取り組みを、我々も応援し続けます。

一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab

理事長 永山 由高

メンバー 一覧

※敬称略

つながるチーム	生まれるチーム	つなげるチーム	ひろげるチーム	楠木神社チーム
上 えりか	古田 昌也	北野 奈緒	外園 美保	神薊 八千朗
上別府 治代	小牧 一徳	山之口 愛章	櫛山 かおり	齊藤 ミチ子
鳥淵 剛	市園 政秀	富吉 佐織	堀之内 力三	四位 勝義
久保 加奈子	植園 裕	手塚 良平	黒木 崇宏	片山 晋介
高場 悦郎	此元 一晶	軸屋 麻衣子	竹下 真治	犬石 祐次
田口 ともみ	花峯 由美	白石 浩二	本坊 弓子	有馬 隆志
高木 繁典	現王園 陽貴	熊田 明日香	小村 宗一郎	若松 剛
植園 俊平	古川 秀人	羽有 郁夫	舟倉 直人	川西 大輔
山下 幸志	岩下 希望	下土橋 潤一郎	小野原 崇之	上原 光志
愛甲 慧				
國師 えりな				
下麦 大志				

さつま町 観光未来計画

平成 31 年 3 月

発行：さつま町商工観光 PR 課 さつま町観光未来研究室

デザイン：一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab

【当冊子についてのお問い合わせ】

さつま町役場 商工観光 PR 課 観光 PR 係

TEL:0996-53-1111 E-mail:shoko-kanko@satsuma-net.jp

おわりに

1年間さつま町の皆さんに伴走させていただく中でたくさんの気づきがありました。

この町には多くの観光資源があること、町の皆さんがそれらを大切に思っていること、そして一歩踏み出す熱意を持った方がたくさんいらっしゃるということ。

観光を取り巻く状況はどんどん変化し、これまでのような「観光地をめぐる」旅から、「暮らしの光を見る」旅へと変わってきています。

「ここでなければ」「今でなければ」「この人でなければ」という、さつま町ならではの観光体験を町として提供するために、まずは町の皆さんが同じ目標に向かって走り続けることが必要です。

今回確認した理想の未来をより多くの人と共有するとともに、自分たちが当事者であるという気持ちを常に持ち続けること。

この町に住む人と、この町を訪れる人がともに幸せを感じられる街を目指して。
皆さんのこれからの取り組みを、我々も応援し続けます。

一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab
理事長 永山 由高

さつま町 観光未来計画

メンバー 一覧

※敬称略

つながるチーム	生まれるチーム	つなげるチーム	ひろげるチーム	楠木神社チーム
上 えりか	古田 昌也	北野 奈緒	外岡 美保	神薗 八千朗
上別府 治代	小牧 一徳	山之口 愛章	楡山 かおり	齊藤 ミチ子
鳥淵 剛	市園 政秀	富吉 佐織	堀之内 力三	四位 勝義
久保 加奈子	植園 裕	手塚 良平	黒木 崇宏	片山 普介
高場 悦郎	此元 一晶	軸屋 麻衣子	竹下 真治	犬石 祐次
田口 ともみ	花峯 由美	白石 浩二	本坊 弓子	有馬 隆志
高木 繁典	現王園 陽貴	熊田 明日香	小村 宗一郎	若松 剛
植園 俊平	古川 秀人	羽有 郁夫	舟倉 直人	川西 大輔
山下 幸志	岩下 希望	下土橋 潤一郎	小野原 崇之	上原 光志
愛甲 慧				
國師 えりな				
下麦 大志				

さつま町 観光未来計画

平成 31 年 3 月

発行：さつま町商工観光 PR 課 さつま町観光未来研究室

デザイン：一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab

【当冊子についてのお問い合わせ】

さつま町役場 商工観光 PR 課 観光 PR 係

TEL:0996-53-1111 E-mail:shoko-kanko@satsuma-net.jp

